

THE QUARTERLY REPORT

立教大學經濟學公報

VOL. III No. 1

1933

國際的經濟協調としての 複本位制の提唱

經二 大 江 一 吾

歐洲大戰後の世界を數言を以つて盡せば「混沌と錯雜への化体」と言ひ得様う。政治的に將又經濟的に何處に改善が有り、何處により良き發展が有つたか。唯世界經濟でふ一有機体が無統制と複雑化への合体の一路を邁進するが爲に閱まれた歲月が即ち大戰後の拾有五ヶ年であつた。此の十五年間を上述の如くカバーするものに幾多の顯著なる事實と現象の陸續發生が有つたのである。

即ち彼の賠償戰債を廻ぐる數度の關係各國會議並びに軍備縮少或は削減、安全保障の爲のワシントン、ロンドン、ジュネーヴ、ローマ等に於ける列強會議其他地方的又部分的會議乃至會商の開催を見たるは周知

の記録である。此等は悉く具体的事象なるも、吾人は其處に無形的生産物の存在を確然と意識せざるを得ないのである。それは世界的不況と未曾有の恐慌である。而も此の具象的乃至無形的現象は戰後全世界が如何に苦惱し如何に痛喘せしかを、雄辯に物語るものである。此兩現象が大戰の成果として二十世紀初葉に於ける世界の苦惱史を「未曾有なる」筆致を以つて難なく書き終へしめたのである。

斯る十有五ヶ年が吾人の腦裡に特に深刻せるものは變態的諸現象である。約言すれば前述の不況と恐慌がそれである。扱て資本主義に必然的に伴隨する恐慌は週期的反覆にして或一定期間の經過を見る時、好化への自然的

轉換を爲すと云ふが如き樂觀的見解に甘んじ現下の恐慌も底を入れ纏て回復期は到來せんとする極めて漠然たる豫想を行ふ者有るを屢々聞く。之こそ歐洲大戰前の景氣循環論——景氣沈滞期(3年)、景氣安定期(3年)、景氣昂騰期(2年)、景氣奔騰期(1年)、崩壞期(1年)の順序に約十年を一週期として反覆する——を其儘盲信するが爲に陷る明白なる謬見である。此恐慌が其内容と本質に於て大戰前の其等とは著しく相違し、從つて約十年を一週期として好況、不況が循環すると云ふ正統經濟學の金科玉條たる

從來の景氣循環論を以つてしては、現下の經濟諸現象の充分なる説明を行ふの至難なるは何人も容易に理解し得る處である。

大戰中既に潜在せし恐慌病菌は漸く猖獗を極めつゝ、各國經濟の基礎を侵蝕し、薄弱ならしめ、景氣の浮沈を現出しつゝ急降的拋物線を素描する中、世界は一九二九年を迎へたのである。此間獨り米國は萬年景氣を謳歌し、國民は桃源の佳境

目 次

論 說

國際的經濟協調としての

複本位制の提唱……………經二 大 江 一 吾

“Rent.”に對する學說と

其の批判……………經三 青 山 英 晴

歴史の決定者……………經三 吉 田 武 雄

企業問題を通しての考察……………經三 石 井 泰

英國關稅の部分的考察……………經二 秋 山 正 明

世界經濟會議の諸問題研究

會 報

編輯後記及事業報告

に黄金を把握する正夢を夢みて自己陶醉に餘念が無かつた。併乍此の黄金國米穀にも、何時しか恐慌へ導しくジंकスは潜在し、一九二九年十月二十四日のウォール街の株式大暴落を惹起し茲に世界恐慌の全面的火蓋は切つて落され、忽然として燎原の火の如く波及擴大せし事は今更贅言を必要としない處である。蓋し米國の恐慌も起るの日に起れる物に非ざる事は、事前の諸般の經濟事情と狀勢とを穿鑿する時又其間の經緯より容易に首肯し得るのである。米國の墜落的な不況の影響の波紋は地球を幾回轉して消滅した事であらう、否今尙其餘力を弱めず、廻り來れる波面は五星霜を經過せる本年皮肉にも、再び母國の金融組織の缺陷に指觸して去る三月六日の金融大恐慌